

委員長 法橋尚宏（神戸大学大学院保健学研究科）

委員 河原宣子（京都橘大学看護学部看護学科）

小林京子（神戸大学大学院保健学研究科）

1. アジア圏における家族看護学の実態調査

- 1) 2008 年 3 月にアジア圏で実施した質問紙調査を分析し、その報告書「The Current Status of Family Nursing Education and Research in Asian Countries and Promotion of International Exchanges」を作成した。その内容は、『家族看護学研究』（Vol.14, No.3）、学会の Web に掲載した。
- 2) 9th International Family Nursing Conference (9th IFNC) の演題として、本調査の結果を申し込み、ポスター演題として採択された。

2. アジア圏との情報交流、連絡協議会の発足に向けての話し合い

- 1) 日本家族看護学会第 15 回学術集会（2008 年 9 月）において、アジア圏の研究者である Sharron Leung 博士（The University of Hong Kong）を招聘し、交流セッション「香港の家族看護学の現状と課題：アジア圏での国際交流の推進」を開催した。その内容は、「香港における家族看護学の現状・課題と国際交流の推進」として、『家族看護学研究』（Vol.14, No.3）に掲載した。
- 2) アジア圏の研究者と電子メールを使い、家族看護学に関する情報交換を行った。

3. 海外から『家族看護学研究』誌への論文投稿の推進

- 1) 『家族看護学研究』誌の投稿規定の英語版を作成し、『家族看護学研究』（Vol.14, No.3）で掲載した。

4. 9th IFNC の情報提供、飛行機・宿泊の補助

- 1) 9th IFNC に関する情報を『家族看護学研究』（Vol.14, No.1）と学会の Web に掲載した。
- 2) 9th IFNC への演題登録の技術支援（演題の日英翻訳サービス）（近畿日本ツーリスト）を計画・実施した。
- 3) 9th IFNC 参加ツアー（近畿日本ツーリスト）を計画・受付した（32 名が参加予定）。

5. 海外からの窓口業務

- 1) 9th IFNC に関する日本の窓口として機能した（Erla Svavarsdottir 博士（University of Iceland）などとの対応）。
- 2) International Family Nursing Association（仮称）に関する日本の窓口として機能した（Catherine Chesla 博士（UCSF）などとの対応）。役員のノミネート委員に石垣和子理事長を推薦し、就任した。

（以上）